

オンラインで開催 全退教第31回定期総会

報告 高退協副会長

田中正

昨年中止され、今年は二年ぶりになる全退教定期総会が二日にわたり、オンラインで各県各会場で開催され、高退協も高知城ホールで参加しました。方針案では、全退教三十周年記念事業やコロナ禍の中でも一刻も早い親睦交流の再生で元氣をつなぎ、国民の劇的な変化に確信を持ち、憲法を守り生かし、いのち・くらしを守る政治に転換させよう、「教え子」を再び戦場に送るな！を掲げ憲法の生きる社会を現職や教え子世代と共に「くろう」。「退職教職員とも対話を進め、会員を増やそう。会員にニュースを届け、対話をし、交流親睦し、日日の生活や喜び、悩みなどを交換しよう」などが提起され、全国の二十八人の各県会員

高退協は高知城ホールでのべ10名を超える参加

から各県の取り組みや会員拡大などの意見発表がされました。高退協からは、三谷さんから三十周年記念事業の内容への質問と直接会えば人間性が深まる「三百人程度の大集会の開催」を提案しました。川村会長は、「ピキニ被爆者国家賠償訴訟について発言しました。被爆者と家族の心と身体に寄り添わない不当な判決が出ていますが、現在高知地裁判決の協会けんぽ側の労働申請不承認の取り消しを求める高松高裁での控訴判決の結果を待って、今後の闘い方を確認していくことになっていきます。全退教の支援を引き続きお願いいたします」と発言しました。

世界的にはインドの厳しい感染状況が目立って、日本の状況をインドよりもまだまだ甘く見ています。しかし、日刊ゲンダイによりますと、5月中旬の一週間の調査では、百万人当たりのコロナ死亡率はインドが16.5人、大阪府は22.6人となっており、死亡率はインドよりも大阪府の方が高くなっています。

老人よ、立ち上げられ！ 高齢者よ、大志をいだけ！

高退協会長挨拶

川村真実



さらに、経済大国、先進国と言われる日本にあって、病院できちんと診てもらえずに亡くなる人が続発していることに驚愕します。一般の人々が、なぜこれほど多く、死ななくてはいけないのでしょうか。国民の命を最優先にする施策をきちんと示さず、後手後手になっている政府が多く国民の命を奪ったと思います。

私には現職の時から、退職者の皆さんを「知恵と経験と時間がある頼もしい存在」と思ってきました。高退協の皆さんにはその上に民主主義を守る、そして懸念に生きる人々の幸せを思う強い信念があります。

高退協新役員あいさつ

高橋哲也さん

高退協常任委員



高知海洋高校を2015年3月に再雇用を希望せず定年退職して6年が過ぎました。等(琴)を演奏する妻に勧められて始めた尺八も30年以上になります。現在は「和楽器奏団『古楽の魂』」というグループでの演奏活動や小中高等学校での演奏指導、邦楽関係のNPO法人の役員など邦楽を中心とした生活をしており、また、縁あって、大学生の勉強のお手伝いもしており、この6年間、小学校から大学までの教育現場の端っこの方で、お手伝いをしていただいています。今流行の言葉で言うなら年金と言っベーシックインカム(竹中平蔵のスケベ心のBIではない)に支えられて、奇跡幸平の提唱する、(ニコモ)になる活動をしてきたとも言えるのかも知れません。ですので、収入はほとんどないものの「退職」という言葉が胸に落ちてきません。

上のQRコードまたは下のURLで高橋さんの『waraku』のホームページにつながります

<http://www.otonobunka.com/playermember/waraku/>

高退協新加入者紹介

竹村真さん

美術科教員



高知北高校美術室にて

この度、高退協に入会しました竹村真と申します。組合員としては、会費納入のみの不活動生で申し訳ありませんでした。

現役時代お世話になった事務局の大川先生から、入会の挨拶を頂くようにとのご連絡があり、現況を書くことになりました。

現在は、再任用で引き続き高知北高校通信制に勤務しています。通信制は、様々な事情で高校資格を取るために、仕事をしながら子育てをしたがら頑張っている、生徒たちには本当に頭が下がる思いです。

さて、私は2、3年前から木彫りを始めています。全くの素人で技術もセンスもない拙い作品ですが、図々しくも時々職員室の机に置いたりして人に見せるのも楽しみにしています。

以下、ホーム通信の記事を載せて、現況報告します。



職員室のチョコ



左が壮年期、右が老年期のチョコ
高知北高校校庭にて 制作 竹村真

高退協の先輩方、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

チョコさんについて

竹村真

家のチョコさん(飼犬)が、4月3日(土)に逝ってしまいました。今も、チョコの気配を感じることがあり、寂しさを覚えています。

大月町の公園で出会ったのが15年前、娘の成長と共にアツツという間にやんちゃや盛りりの若犬となり、壮年期、やがて、老いの時期を迎え一生を終えました。私にとって、チョコの生き様は、命はこうして終わっていくのだな。人生の先輩のように思える晩年”でありました。

左のチョコの彫刻は、老いの姿を写し出した作品です。耳や目は微かになり、足腰が弱り肉は痩せ骨ばって背は曲がり、首をもたげることなく、いつもじっとこの姿で佇んでいました。痛みや苦しさもあ

るだろうに、夢とうつつの間をさまよっていたのかも知れません。

でも、声をかけて立ち上げさせると餌を食べようとしていました。最後の晩はほんの少し水を飲んで、翌朝に立立っていきました。私が様子を見に行った時、まだ体は少し暖かかったです。待っていてくれたのかも知れませんが、穏やかな最期でした。

老いは、苦しみや悲しみなどの痛みを緩和させ、死の苦しみを穏やかにしてくれる、自然な生のメカニズムなのかも知れません。

私もこのように穏やかな終末を迎えたいものです。

チョコはこの日、娘を呼び寄せ、家の山に埋葬され家族に弔られて逝きました。

チョコさん、我家に来てくれてありがとう。

次回の彫刻は、若いころのチョコを彫ろうと思います。